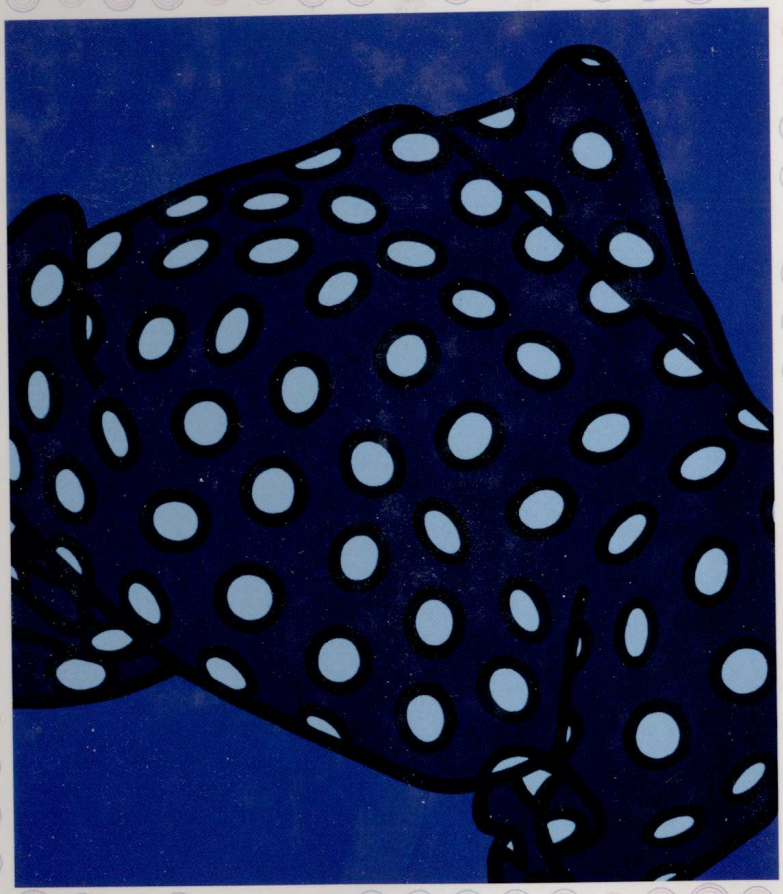
Sadness

哀しみ

ドナルド・バーセルミ
Donald Barthelme
山崎勉 訳



Patrick Caulfield "She'll have forgotten her scarf"

彩流社

Sadness

哀しみ

Donald Barthelme

ドナルド・バーセルミ

山崎勉 訳

彩流社

ドナルド・バーセルミ（Donald Barthelme, 1931-1989）

フィラデルフィアに生まれ、2歳の時に移ったヒューストンで育つ。ヒューストン大学卒業。新聞記者、ヒューストン現代美術館の運営、編集者等を経験。62年、ニューヨークへ移り、美術と文芸を扱った雑誌「ロケーション」の編集に携わりながら、「ニューヨーカー」誌を中心に前衛的な手法による短篇を発表し始め、70年代になると同誌に定期的に掲載されるようになる。「断片だけがぼくの信頼する唯一の形式」という信条を持ち、言葉のコラージュ、パロディ、独特の造語などの手法を駆使し、逆説、風刺、寓意に満ちた作品を数多く発表。現代アメリカ文学を代表する作家。

山崎 勉　1927年生まれ。現代英米文学専攻。訳書にD・レッシング『暮れなずむ女』（三笠書房）、L・ダレル『セルビアの白鷺』（晶文社）、M・タッカー『アフリカ－文学的イメージ』、D・バーセルミ『口に出せない習慣、不自然な行為』『罪深き愉しみ』『アマチュアたち』（彩流社）などがある。

哀しみ　現代アメリカ文学叢書⑪

1998年10月15日　発　行　　定価はカバーに表示してあります

著　者　D・バーセルミ
訳　者　山崎　勉
発行者　竹内淳夫

発行所　株式会社　彩流社
〒102-0071　東京都千代田区富士見2－2－2
電話　03(3234)5931　Fax 03(3234)5932

組版　野ばら社
印刷　㈱平河工業社
製本　㈲青木製本

Printed in Japan

落丁本・乱丁本はお取替いたします。　ISBN 4－88202－530－2　C0097

哀しみ

SADNESS
by Donald Barthelme
Copyright ©1970 by Donald Barthelme
Japanese translation rights arranged with
Aitken, Stone & Wylie Limited
through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo.
published in Japan, 1998
by Sairyusha, Tokyo.

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

カーク・セールとフェース・セールに

および

ハリソン・スターとサンドラ・スターに

捧ぐ

目次　哀しみ

日常生活批判　9
トロイメライ　25
天才　37
パペチュア　55
教会の町　73
パーティー　85
パウル・クレー工兵、一九一六年三月、
　ミルベルツホーフェン、カンブレ間で航空機を一機紛失す　95
映画　105
睡魔　121

別離八景　139
召喚令状　157
カテキスト　165
宮殿からの鳩の群の飛翔　179
資本主義の興隆　193
聖アントニウスの誘惑　205
ドーミエ　221
訳者あとがき　253

装幀／渡辺将史

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

日常生活批判——*Critique de la Vie Quotidienne*

私は『感覚遮断研究』という心理学の専門誌を読み、一方、前妻のワンダは『エル』というフランス語の雑誌を読んでいた。『エル』は、大学でフランス語を専攻し、今では子供の世話と窓の外を眺める以外大してすることのない女に、反逆の精神を植えつける雑誌だった。ワンダはその雑誌に心底、共鳴した。「妊婦は生焼きのビフテキを食べてはいけない」と『エル』が断言すると、ワンダはそれを遵守した。妊娠中、彼女は一切れたりとも生焼きのビフテキを口にしなかった。彼女は『エル』の教えに従って、ちょっとナイーヴな感じ、女学生ふうなところを身につけた。彼女はしょっちゅう、ブルターニュの修復された見事な水車小屋の四色刷りの写真を私に見せていたが、その小屋はアーナ・ヤコブセンの家具とか、ミラノ製の明るい赤やオレンジ色のプラスチックの調度品で模様替えがしてあった。「自然を取り入れた家屋」というのだそうだ。ワンダの妊娠期間中、『エル』は映画女優のアンナ・カリーナの近況を伝える記事を四千編にもわたって連載していて、ワンダは実際彼女にどことなく似てきたりしたものだ。

私たちの夕暮れには約束されたものなど何一つなかった。結婚している男にとって、夕暮れの世界は約束の不在で充満しているように思えるものだ。家に帰り、いつもどおりグラス九杯の酒をあおってすべてを忘れてしまう以外、何もすることはないのだ。

サイドテーブルの上に、九個のグラスを整列した兵隊のように並べて、君はお気に入りの椅子にどっかと腰を下ろし、片方の手は決してグラスから遠くないところに置き、もう片方の手はたらふく食べてぽんぽんに膨らんだ膝の上の子供の腹のあたりに乗っけて、もし君の椅子が当時私が使っていたのと同じようなロッキングチェアなら、その椅子をたぶん少しゆらゆらさせている、とそのとき、侮慢（コンテンプト）の、おっと、満足（コンテント）の小さな巻きひげがこの世のありとあらゆる満足で満杯になっている倉庫の中からくるくるっと伸びてきて、君の酔のまわった脳みそにまで届き、そこにしっかりとからみついて、「俺の労働の成果はどこにあるんだ」とか何とかいつもぼやいている君に、君の労働の成果はとどのつまりこれなのだと無理にも信じ込ませようとする。そこで君は、このいんちきな洞察にあらたに励まされ元気づけられて、空いている方の手（つまり九個のグラスをつかんでいないほうの手）で息子の頭を軽く撫でてやると、息子は君のご機嫌をうかがうように君を見上げて、「僕、馬を飼いたいんだけど」などと切り出してきて、これは子供のおねだりとしてはごく当たり前と言わざるをえないのだが、それは一つの考え方で、別の考え方をすれば、君がやっとの思いで手に入れた夕方六時のかかる平穏無事な状態をこっぱみじんに打ち砕くものでもあって、そんな子供のおねだりは土台無理な話、

そこで君は馬を飼う計画など未来永劫、金輪際ご免だという口調で――犬の吠え声のたとえではないが、噛みつかんばかりの勢いで――「駄目だ」と思い切り怒鳴る。しかし、よく見ると君の息子は使い古したブリロたわしそっくりのぼろ靴をはいていて、そんな息子と子供の頃の自分とを重ね合わせてみると、君だって昔々、大戦より前のことだが、馬を欲しがったことを思い出すはずで、そこで君は気を取り直して、もう一杯酒をあおり（たぶん三杯目だろう）、思慮深げな顔つき（もちろんそれは君が君の敵をあざむき、冷淡な友人から身を護るために一日中装っている例のまじめくさった思慮深そうな顔つきと同じだ）をして、穏やかに、優しく、ときにはもっともらしく息子に語りかけ、元来、馬というのはブラウンストーンのぼろアパートの狭苦しい場所に閉じ込められるより、勝手に歩きまわって、草を食べ、いいなと思った馬と交尾できる何もない広々としたところのほうが好きな動物で、たとえ買ってきたとしても、こんな子供の部屋では馬だって嬉しくないだろうと言って聞かせ、それでもお前は、しょんぼり、くよくよして、寝室のダブルベッド一杯に横たわり、もしかしたら時折吐いたり、あるいは怒った証拠に壁の一つや二つ蹴り倒すかもしれない、そんな不幸せな馬が欲しいのか、と尋ねる。しかし息子は、話の方向を察知して、小さなかわいい手でチョップしながら、「そうじゃないよ」ともどかしそうに言い、僕はそんなこと言ってないよ、僕が考えていたのはお父さんが反対しているようなことじゃなくて、全然別のことなんだ、と君を説得しにかかる。馬は僕のものでも、飼うのは公園のうまやの中なんだよ、オットーの飼っている馬みたいに。

「オットーが馬を飼ってるって?」と君は驚いて聞きかえす――オットーというのは君の息子の保育園の友達で、年齢も同じなら知能も肉眼で見える範囲では君の息子とおつかつ、ただし富という次元においてはたぶん向こうのほうが少々上かもしれない――すると息子はうなずいて、うん、オットーは馬を飼ってるんだと言い、目にうっすらと涙を滲ませて、その目を君に突きつけてくるものだから、君はオットーの両親の無責任ぶりを精一杯ののしり、相場が下落してやつらの生活が取り返しのつかないほど目茶目茶になればいいと心底願いながら、うっすらと涙を浮かべて泣いている息子を膝の上から押しのけて床に下ろし、それから妻の方に向き直ると、当の妻は顔を壁に向けたまま、この間のやりとりを一部始終聞いていて、しかもその表情たるや、哀れにもグレゴリウス教皇に対し、教皇庁所在地アヴィニョンでのその生活ぶりが贅沢すぎると説教をくらわしたあのシエナの聖カタリナのそれとそっくりだったことは間違いなく、とはいってもそれは彼女の表情が見てとれたらの話で（もちろん彼女は顔を壁に向けていたので、見てとれるはずはない）――で、君は今も言ったように妻の方を見て、こんなとんでもない子供を俺に生みやがって、お前なんか月へでもどこへでもさっさと消えうせろと内心悪態をつきながら、でも精一杯穏やかな口調で、夕食は何だねと尋ねる、というのも九杯のうちもう二杯しか残っておらず、カクテル・アワーもそろそろお仕舞になりかけたからである（君は体のためを思って、夕食前は九杯を超えては絶対に飲まないと大袈裟な誓いを立てている身なのだ）。彼女は例のナイーヴな感じを女王のように漂わせて立ち上がり、君がいい子に

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com